



日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り
第 82 号
2023年1月20日
編集兼発行人
谷口 正俊

HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI



碓石ヶ浦の初日の出

撮影者：大津 博昌

撮影日：令和4年1月1日

撮影場所：日立市碓石ヶ浦

撮影余話：読売新聞の「よみうりタウンニュース」には茨城県郷土の各種ニュースが掲載されている。その中に茨城県の初日の出の名所が数か所載っていた。その中の「鵜の岬の碓石ヶ浦」も最近有名になって多くの方が初日の出を拝みに来ると言う。私の家から一番近いので暗いうちに出かけたが駐車場所は殆ど満車で駐車に苦労した。撮影場所にはたくさんの方がおり、撮影場所確保に苦労した。近くではご来光と同時に鏡開きも行われ賑やかでした。

新年を迎えて

支部長 住川 雅晴



明けましておめでとうございます。ご家族皆様お揃いで明るい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、引き続きコロナ対策に振り回された1年でした。感染予防を徹底

しながら同好会をはじめ各種のシニア活動を積極的に展開していただきました。また、世界の強豪チームであるドイツ、スペインに勝利したサッカーワールドカップでの日本チームの活躍に、日本中が湧いたのも心に残る出来事でした。

一方で、ロシアのウクライナ侵攻がもたらしたインパクトは強烈でした。人間の醜い権力欲を見せつけられたと同時に、日本の地政学的なあり方を突き付けられました。世界中からお金で何でも買える時代から、必ずしも買えない時代に突入したのです。安全保障のみならず経済的自立性が問われるようになったのです。外交の努力でこれらの問題を解決するのは勿論ですが、今や日本の経済的自立能力をどうやって確かなものにするかが重要になってきました。そのためにはまず、我が国の潜在的資源を有効に活用することに目を向けることが大切です。森林・耕作地の再開発、世界第6位で国土の約10倍の広さを誇る排他的経済水域での資源開発など、長期的ビジョンに基づいた戦略的開発が求められています。次の時代を担う若者たちへ残すべき財産を構築する手立てに今から着手しておくことが求められています。

今年の干支は癸卯(みずのと・う)です。これまでの努力が花開き、実り始めるという縁起の良い年と言わ

れています。今年こそはコロナ、インフルエンザに負けることなく、明るい年にしたいものです。会員の皆様並びにご家族皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

茨城支部からのお知らせ

- ① 第72期第1回日立社友クラブ理事会報告
 - ・会員候補者から78名が入会を承認され、本部会員総数は7,515名となった。
- ② 2022年12月茨城支部役員会報告
 - ・住川支部長は今年度をもって支部長を退任し、新支部長に田中幸二氏が就任される。
 - ・支部入会申込者6名の入会が承認された。
 - ・支部会員は950名(2022年12月時点)となった。
 - ・会員募集活動を支部全体で取り組む。

茨城支部総会のご案内

2023年度第121回茨城支部総会の開催を以下に予定しています。

- ・期日：2023年5月26日(金) 10:00~12:00
- ・会場：ホテル天地閣

新型コロナウイルスの感染状況により変更になる場合があります。詳細内容は後報します。

「理科室のおじさん」急募

日立理科クラブからのお知らせです。

週2日間ほど、日立市内の小学校へ出向いて、理科授業の先生のお手伝い(準備・整備・後片付け)をしていただける方を募集しています。「子ども好き・科学好き・モノづくり好き」な方、是非お願いします。

連絡先：日立理科クラブ 担当：畑山・河野

TEL・FAX:0294-24-3104

E-Mail: hsc-rikakurabu@net1.jway.ne.jp

自家製本作りからフォトブック作りへ 楽しく、早く、簡単に

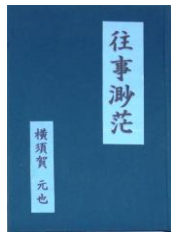
横須賀 元也



平成27年(2015年)春頃、自家製本作りを始めた。きっかけは昔お世話になった叔母の13

回忌の法要に招待された時であった。久しぶりに逢う従兄弟の4名とその配偶者と旧交を温め昔の思い出などの話が弾んだが、従兄弟の子供たち夫婦や孫に当たるその子供たちとは殆んど面識が無かった。祖父は明治元年(1868年)生まれで現在の令和4年(2022年)から154年前である。小生が12歳の時に亡くなったがその面影などは今でも覚えている。しかし平成・令和世代の人たちは遠い昔の先祖としか思えない筈である。その若い世代の人たちに自分が知っている祖父母や、父母の兄弟の生きていた時代のエピソードなどを伝えるのは、先達として生まれた者としての義務ではないかと思った。そして、取り敢えず従兄弟にあたる父の兄弟の子供たちに呼び掛けて資料を持ち寄って貰った。集まった資料は手紙や写真など予想以上に多かつたがそれを編集して、最終的にA5用紙で200ページほどの本にまとめ、親戚の主だった人に配布しようと考えた。部数は15部から20部程度で、印刷屋には頼まずに自分でやるつもりだった。丁度その頃、日立市多賀駅前にある「コミュニティNEE」(略称「Cnet」ひたち)というNPO法人に所属し、茨城支部の会員でもあるKさんから、「Cnet製本工房」を設置し、「パソコンによる製本講座」を開いたとの話を聞いた。そこで平成27年7月から講座に参加させてもら

うことにした。テキストは「布装厚紙表紙の製本」という本格的なものである。最初の項目は本作りの基礎というもので、まず原稿作成である。以前からブログやホームページを作っていたので、ワードでの原稿作成は簡単だと思っていた。しかし、本を作るための編集はA4用紙1枚の表裏を使用してA5用紙4ページ分を印刷し、それを4枚合わせた16ページを一折丁とすると、200ページの原稿は12半の折丁になる。その後綴本折丁作り、糸綴じという面倒くさい手作業をし、さらにとびらや目次、遊び紙などを付け、表裏に布装厚紙表紙を取り付けると厚さ18ミリの立派な本になる。自分一人では上手くいかず、だいたいK先生の世話になったが、何とか平成28年7月に完成できた。表題は「往時渺茫(びようぼう)」という白楽天の漢詩からとった。昔のことは遠く霞んでおぼろげであるという意味である。(写真①)



写真①

その翌年の平成29年に友人たちの要望もあり、また折角手作業で完成させた自家製本作りのやり方を忘れないようにしようと思ひ、小生のホームページにある「幕末の水戸藩」という天狗・書生の争いをテーマにした内容のものを選び、2冊目の本を作ることにした。前回作成した時の費用は、当初の銀杏ゴテや糸鋸などの用具購入費用が1万2千円かかったが、それ以外の材料費やCnetの指導料は4万円弱で190頁、16部の布製厚紙表紙の本が作れた。今回は120頁、12部作製にしたので、2万円程度で作れた。完成したのは平成29年9月である。この本では那珂湊戦争、部田野原の戦い、弘道館の戦いなどあまり知られていない郷土での戦いの事も記した。(写真②)



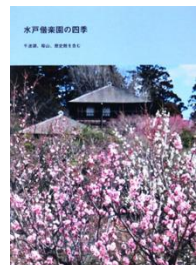
写真②

その翌年の平成30年には、以前HPの会に入れて頂き、支部便り37号に会員投稿として発表させて頂いた「奥の細道漫遊紀行」をホームページというネットではなく、書籍として残しておこうと思ひ、Cnetのお世話になりながら製本作業を行い、「奥の細道漫遊紀行」として次の三巻を製本した。11月に(一)「深川く平泉」、翌年の平成31年4月に(二)「尿前の関く市振」を、令和元年10月に(三)「越中路く大垣(伊賀上野と義仲寺を含む)」の三巻を同じように「布装厚紙表紙の製本」で作ることができた。(写真③)



写真③

これで5冊の書籍を作ったことになる。なお「幕末の水戸藩」「奥の細道漫遊紀行全三巻」は茨城県立図書館に各1部ずつ贈呈させて頂いた。しかし本作りの最初の原稿作成はパソコンでホームページを作る要領でできたが、次の製本作業となると手作業が多くなり、作業が進まずだいぶ苦勞をしたので、今後は他の方法がないかと考えた。令和2年になって「Cnet ひたち」のKさんから「しままプリント」という会社で、フォトブックという写真集を作れるという話を聞き、その会社のホームページを調べ、使えそうな感触があったので、「水戸借楽園の四季」というA5版75頁のフォトブックの原稿を作り申し込んだ。(写真④)

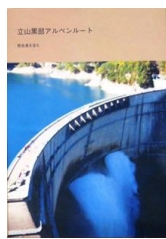


写真④

出来上がったフォトブックは普通の写真プリントで印刷され、装丁も良く、このページ数で一部800円程度で作れるというし、経済的にも負担が少ないので、今後はこの方法で作ることになった。小生は、令和5年は90歳になりホームページ作りもいつまでもは続けられなくなると思ひ、終活の一つとしてホームページに掲載した内容の一部をフォトブックとして残して置く積りで、すでに20冊上作成した。次の写真はそのうちの一つ立山黒部アルペンルート(写真⑤)



写真⑤



写真⑥

横須賀元也氏 連絡先

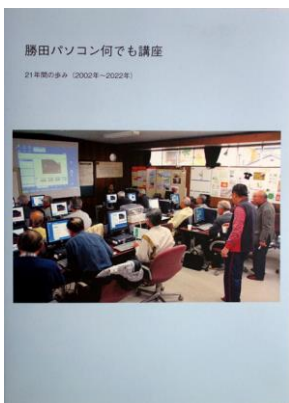
〒310-0841 水戸市酒門町 5034-2
電話: 029-232-0480
メール: m45miho@outlook.com

リレー随筆 (82) 勝田パソコン21年の歩み 佐々木 六彌



「勝田パソコン何でも講座(以下勝田PC)」は、2002年発足し、渡部さんが講師を務めて水戸・勝田地区の支部メンバーに「パソコンに関する何でも相談」に応じてきました。場所は、ひたちなか市のHIMEC パソコン教室を使用して開始し、2007年4月からワークプラザ勝田に移転して現在に至っています。

勝田PCの歩みをフォトブックにしたのは、メンバーの横須賀さんがフォトブックを紹介されたのがきっかけでした。21年間に亘る歴史を振り返っていくとなりますと、まずその間の写真が必要です。最近の10年間の写真は何とか整理されていましたが、それ以前はできておらず、いろいろな保管場所から探す作業から始めました。特にWindowsのバージョン変遷でパソコンが何代も変わったことが、そのことを難しくしました。2001年 Win. XP、2006年 Win. Vista、2009年 Win. 7、2012年 Win. 8、2015年 Win. 10 となり、このことによりパソコンやソフトが変わり翻弄された 21年間であったと思います。パソコンが変わった時のデータの保



フォトブックの表紙

存の仕方については、反省しきりです。



2002年当時の講座の様子

21年間にもなりますと、悲しい別れ、年齢でやめざるを得ない方、この地から離れられる方や興味がなくやめられる方、また途中で参加される方などその動静は本当に様々です。しかし、その中にあっても最初から参加されている方も多数おられます。パソコンのこともさることながら仲間との語り合いが楽しい。その一つが新年会です。さらには、Windowsのバージョン変遷によりパソコンやソフトが変わることが、続けざるを得ない源泉にもなっていたと思っています。今回、画像ソフトを使つての作業が多くなりましたが、以前日立地区のパソコン教室で習得したことが作成に大いに役立ちました。

フォトブックを見た皆さんの感想は、懐かしいとの想いです。新しいことへの挑戦も必要ですが、21年間の歩みを振り返って見るのも楽しくて良いものです。



2022年8月の講座の様子

同好会行事に参加して

「研修会」

石田 和夫



研修会は令和元年10月の第82回研修会「つくば学園都市」を最後に3年間中断しています。新型コロナウイルスの感染拡大によるもので、特に第83回「福島第1原子力発電所」はバス満席の44名以上の参加申し込みを頂きながら、直前に中止せざるを得なかったことは残念でなりません。最近では政府もウイズコロナに方針を変更したので第84回「鳥山・馬頭」を計画しましたが、世話を除く参加申し込み者が10名以下で第8波の流行も考慮して中止としました。私が代表世話人をやらせてもらった平成24～28年の20回、毎回40名以上参加の研修会を懐かしく思い出しながら、コロナ終息後の研修会はどうなるだろうと危惧しています。同好会会員の減少、参加常連者の高齢化などの問題を抱えています。「若さの秘訣、知的好奇心」をスローガンとする魅力ある研修会の計画が大きな課題です。

「囲碁の会」

七海 清



勝田囲碁は2002年9月から月1回開催しています。私は当初からほぼ20年間継続して参加しています。囲碁の魅力は奥がきわめて深いことです。たった一手で局面が変化して景色が、まるで変わってしまいます。また囲碁独特の劫(こう)というルールがあります。一目(いち

もく)を双方で交互に取り返せる形ができた時、取った後、すぐに取り返してはならないルール。ほかの急所に打って(「劫だて」という)相手がそれに応ずれば、そのあとで一目を取り返す。こうして劫争いが延々と続く。どこの場面で解消するか判断が勝負のカギとなります。今後囲碁を楽しむためにも精魂込めて戦える健康の維持に努めたいと思います。

この会では昼食時、近く中華料理店でランチに舌鼓し会員同士のよもやま話に時を忘れてしまいます。



「PC専門講座」

奥村 清

最初に長い間パソコン専門講座の代表世話人でした安田出さんのご冥福をお祈りいたします。

私がパソコン専門講座に入会したのは平成27年10月の『続Photoshop Elements13講座』の第2回講座からでした(Photoshop Elements(以下PS)13は写真関係のソフトです)。途中からの参加可否を安田さんに問合せし安田さんに入会を認めてもらったことが昨日のようです。PS13の講座開始からは約1年遅れでの途中参加でした。しかも私が購入したのはバージョンアップしたPS14でしたので、途中からの参加かつ13と14の相違で講座についていくのが大変でした。次は同じく写真関係のソフトLightroomの講座でこれにも参加しました。その後OneNote2016講座などと続き、プログラミング言語のPython講座が最後になりました。

同好会の行事ご案内（2月～4月）

1. 研修会

研修会はコロナ感染症が終息するまで当面の間休会とします。

- ・問合せ先：奥村 清
Tel : 090-1252-7396
Fax : 0294-36-0308
E-mail : kiyoshi-okumura@net1.jway.ne.jp

再開後の予定は下記の順で計画しています。

1. 東京電力福島第一原発、他
2. 電力中央研究所/塩原実験場、他
3. 国立印刷局(紙幣などを印刷)、他
(お札と切手の博物館)

2. 第92回歩こう会

【穴戸の枝垂桜&穴戸城跡を歩く】

穴戸駅を出発し、駅付近に点在する寺の枝垂桜を観桜して、その後江戸時代の穴戸藩の城跡を歩き、駅へと戻ってきます。

- ・開催日：4月4日(火) 雨天 4月14日(金)
- ・集合：水戸線穴戸駅 午前10時30分
- ・コース：穴戸駅発→唯信寺→光明寺→完全寺→飛龍神社→見晴公園(昼食)→高寅寺→養福寺→圓通寺→龍穩院→末廣稲荷神社→城跡→穴戸駅着
(多少の上り下りがあり 約6.1km)
- ・持参品：弁当、飲物、雨具、マスクなど
- ・会費：200円(非会員500円)
- ・申込締切：3月28日(火)
- ・申込先：小野瀬 秀夫
Tel/Fax:029-282-4124
E-mail : h1941.0830.onose@tenor.ocn.ne.jp

3. 定例行事予定一覧（開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡いたします）

グループ名	連絡先	実施予定日(曜日)			場所	時間	備考
		2月	3月	4月			
野鳥・自然観察グループ	石川 皓 0294-53-7064 aishika.jp@ybb.me.jp	13(月)			涸沼	9:00~12:00	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			13(月)		高戸海岸	9:00~12:00	
				24(月)	奥久慈 憩いの森	9:00~12:00	
囲碁の会	真鳥岩男 0294-74-5285 sp8k8z59@lake.ocn.ne.jp	13(月) 24(金) 27(月)	13(月) 大会 24(金) 27(月)	10(月) 24(月) 28(金)	大みか拠点	9:30~16:00	参加費：¥100/回 大会：¥1000 (昼食費含む)
	七海 清 029-273-8450 fwny8718@nifty.com	16(木)	16(木)	20(木) 大会	大島コミュニティセンター	9:00~	参加費：¥200/回 大会：¥700
料理教室	並木慎一郎 029-283-1476 s-namiki@themis.ocn.ne.jp	27(月)	27(月)	24(月)	らぼーる ひたち	9:45~	参加費：¥1500/回
卓球クラブ	村上勝雄 0294-24-2430 mkattyan@net1.jway.ne.jp	1, 8, 15(水)	1, 8, 15(水)	5, 12, 19(水)	会瀬体育館	9:00~12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	6(月)	6(月)	3(月)	大みか拠点	10:00~15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
写真五七五	細江 徹 0294-42-9126 tohru92@road.ocn.ne.jp	3(金)	3(金)	7(金)	大みか拠点	9:30~13:00	参加費：¥300/回 昼食別途
PCグループ	基礎講座 奥村 清 090-1252-7396 kiyoshi-okumura@net1.jway.ne.jp	—	—	—	大みか拠点	9:30~15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
	勝田地区 佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	28(火)	28(火)	25(火)	ひたちなか市ワークプラザ	13:15~16:00	参加費：¥500/回
	専門講座 奥村 清 090-1252-7396 kiyoshi-okumura@net1.jway.ne.jp	—	—	—	大みか拠点	9:30~15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む

注) 旅行会(連絡先; 溝口忠憲)は開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

訃報 誠に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。

小松崎智行 令和4年 8月22日 満70歳
 萬田 格造 令和4年 9月14日 満86歳
 安田 出 令和4年 10月19日 満83歳
 菅原 寧 令和4年 10月25日 満96歳
 西野入一雄 令和4年 10月26日 満88歳
 久野 勝邦 令和4年 11月17日 満82歳
 今橋 孝行 令和4年 11月28日 満85歳

編集後記 横須賀さんの自家製本作りの趣味、楽しそうですね。横須賀家の人々、幕末の水戸藩、奥の細道漫遊記等、テーマ選びとその詳細調査、その分野に興味を持ち精通していないと書けないですね。今後とも頑張ってください。佐々木さんの勝田パソコン21年の歩み、講座立ち上げ時からの渡部さんをはじめ関係者の方々の強い熱意と執念に敬意を表します。「パソコンを通じての仲間との語り合いが楽しい」、これが長生きする秘訣ですね。

谷口 正俊